



能登やさしいこめづくり情報

中干し編

中干し開始は田植え1か月後！

令和5年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
JAおおぞら

5月5日の地震の対応について

○地震による被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。
今後の作業については、「安全確保」に十分留意していただくと共に、「**浮き苗**」や「**畔、用水等の亀裂や崩落等**」の異常を確認した際は、早急に**JA**または**農林事務所までご相談**ください。
連絡先：（農林）0768-26-2323 （JA）0768-52-3813(営農部)

1 生育概況

田植え作業は順調に進み、田植え盛期は5月5日（前年並み）となっています。
5月以降、気温は平年並みに推移しており活着は良好です。
今後1か月の気温は平年より高く推移することが予想されることから、分けつの発生が旺盛となり、茎数過剰となる恐れがありますので、下記に基づき、
①「**適期中干しの開始**」と②「**圃場周辺の除草の徹底**」に努めましょう。

今回のポイント
その1

田植え1ヶ月後から、中干し開始で未熟粒の発生抑制!!

○中干し開始までの水管理

✓ 2～3cmの浅水管理で分けつの発生を促進

田面が露出しない範囲で浅水管理を行い、できるだけ地温を上げて分けつの発生を促進しましょう。

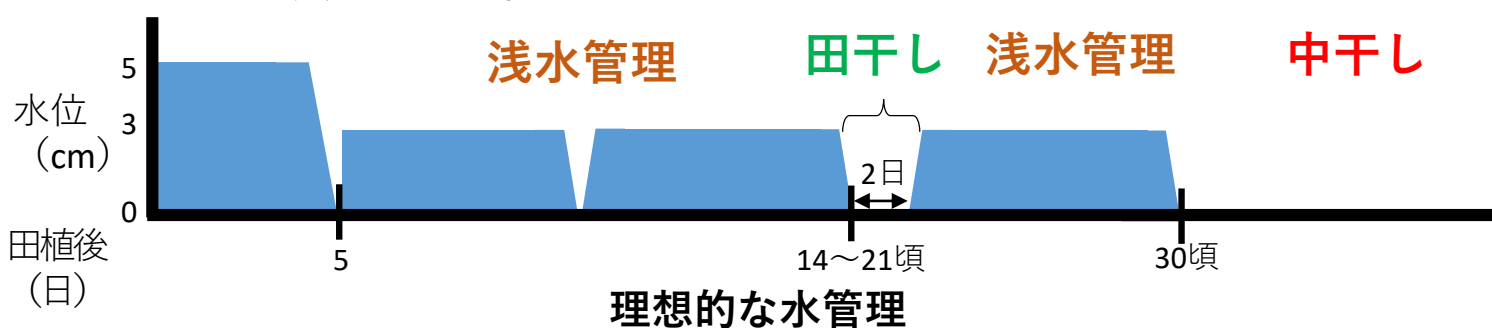
✓ 中干し前に軽い田干しの実施

好天時に軽い田干しを1～2回実施し、ガス抜きを行い、根の健全化を図りましょう（刈取り直後の秋起こしにより、稲わらの腐熟が促進され、ガス湧きは抑えられます）。

○中干しの実施

✓ 田植え後1か月を目安に中干し開始

詳細は裏面を参照。



中干しの効果・意味

- ・無駄な分けつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ・秋の実りを助ける根が発達し、稲の活力を高めます。
- ・根を地中深く張らせることにより、倒伏を防ぎます。
- ・田面が固くなり、コンバイン収穫の作業性が向上します。

➡ **未熟粒やくず米の発生減少** 白未熟粒（乳白粒）



今回のポイント
その2

圃場周辺の雑草を一掃し、カメムシ被害を未然に防止!!

○畦畔、農道等の除草

- ✓ 6月中には圃場周辺の草刈りを徹底
- ✓ 一斉草刈り強化週間（7月4日～10日）に仕上げの除草を実施
- ✓ 7月10日以降は除草しない

○圃場内雑草の除草（必要に応じて）

- ✓ 中・後期除草剤の使用

コシヒカリ・ひゃくまん穀で落等要因の第1位

対象雑草名		除草剤名	散布量	留意点
ノビエ、オモダカ、クログワイ等		アトリ1キロ粒剤1成分	1kg/10a	湛水散布（7日間止め水） 移植後14日（稲5葉期）～ノビエ4葉期 （収穫45日前まで）
ノビエ	水持ちの良いほ場	ヒエクリーン1キロ粒剤1成分	1kg/10a	湛水散布（7日間止め水） 移植後15日～ノビエ4葉期 （収穫45日前まで）
	水持ちの悪いほ場	クリンチャー1キロ粒剤1成分	1.5kg/10a	湛水散布（7日間止め水） 移植後25日～ノビエ5葉期 （収穫30日前まで） ※発生しているヒエのみに効く
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、オモダカ等		バサグラン粒剤1成分	3～4kg/10a	落水して散布 移植後15～55日 （収穫60日前まで）

※能登⑧③④①たんぼづくり運動によるエコ栽培のため、本田除草剤の化学合成農薬成分回数は、合計『4成分以内』に抑えましょう。



斑点米



等級を下げる原因に!!

2 中干し作業の詳細について

①中干し開始・終了の目安

・赤枠で囲った株が中干し開始の適期です。時期を逃さず実施しましょう。

早い



10本

中干し開始の適期



13~15本

遅い



18本

70株/坪植の場合は
12本（コシヒカリ）

品種	開始時期		終了時期	開始・終了時期判断の注意点
	1株あたり 茎数	平 年		
コシヒカリ	15本	6／6頃	7／10頃	・田植え後1ヶ月を目安に、遅くとも左記の茎数に達した時期に中干しを開始して下さい。 ・コシヒカリは中干しを1ヶ月継続しましょう。 ・中干しは幼穂形成期まで継続します。中干し終了時期は左記を目安にして下さい。 ※田植え後の水管理により、圃場毎に分げつの発生に差が生じるので、圃場をよく観察し、中干しを開始しましょう。
能登ひかり	13本	6／8頃	6／30頃	
ひゃくまん穀	13本	6／10頃	7／15頃	
(根 拠)	目標穂数の70%時点 〔コシヒカリ 21本 能登ひかり 18本 ひゃくまん穀 18本〕		幼穂形成期	

②中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間 (平年の目安)	留意点
一般田	田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度	※上記のとおり	※葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続して下さい。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め（大きな亀裂を入れない程度）	一般田よりやや早めに開始し、やや遅めに終了する	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

3 溝切り作業の実施について

- ✓溝切りの効果：均一な中干しの実施、中干し以降の通水・排水作業の効率化
- ・10条に1本の割合で溝を切りましょう（目安）。
 - ・落水1～2日後に溝を切り、6月中旬に同じところを切り直しましょう。
 - ・額縁や水がたまる部分には溝切りを実施して下さい。

4 中間追肥の施用について

- ・近年は高温や日照不足といった登熟期間の天候の変動が大きく、品質の低下要因となっています。
- ・気象変動に強い稲づくりのポイントは、根をしっかりと作り、活力を高め、維持することです。そのためには、「中干し」により、働く根を作るだけでなく、土壌に必要な成分を補うことが重要です。
- ・基肥一発肥料だけでは稲の生育に必要な成分が不足するので、必ず施用しましょう（「BBけい酸パワー・コシー発くん」を施用した場合を除く）。
- ・水稻は、「けい酸植物」とも言われ、10a当たり600kgのコメを収穫するために、けい酸を100kg程度吸収します（下図）。

肥料名	施用時期	施用量	効 果
PKけいさん	6月中旬	40kg/10a	➤ 稲体が強固になり、病害虫抵抗性、耐倒伏性が向上 ➤ 根張りや受光態勢が良くなり、登熟が向上



5 その他注意事項について

- ① 補植苗を本田に放置すると、いもち病の発生源となります。
早急にほ場から取り除き、処分して下さい。
- ② 病害虫や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。コシヒカリの場合、能登米栽培基準を満たすよう農薬の使用にあたっては、最寄りのJAにご相談下さい。